

氏名	永 井 敦		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2543 号		
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 28 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Ethane dimethane sulphonate (EDS) 投与によるラット造精機能障害およびその防御的薬剤の検討		
論文審査委員	教授 工藤 尚文	教授 佐伯 清美	教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

SD系雄性ラットに ethane dimethane sulphonate (EDS) を投与し、EDSによる精巣障害ならびに精細管内 androgen 濃度に及ぼす影響について基礎的検討を行った。さらに EDS による精巣障害に対して testosterone propionate (TP), hCG 皮下注射および T microcrystal suspension (Tmcs) 精巣内注入を行い、この 3 群における防御的効果を検討した。

EDS 投与により精子形成障害をきたし、精細管内 androgen 濃度も有意に低下した。

hCG および Tmcs により精細管内 T 濃度の増加を認め、精細管障害を防御することが可能であった。TP 投与は精細管内 androgen 濃度を著明に低下させたが、精細管障害を防御することが判明した。このことより TP によるプライミングによって精細管内 androgen binding protein (ABP) が増加し、精子形成を惹起することが推察された。

精細管内では T は精子形成に重要な役割を果たす因子であることが示唆され、精巣内 Tmcs 注入療法は一部の特発性男性不妊症に対して有用な治療法であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は特発性男性不妊症治療に関する基礎的な実験としてラットに EDS を投与することにより精巣および精細管の障害をおこし、これらに対して Testosterone propionate, hCG および Testosterone microcrystal suspension を用い、それらの防御的効果を検討したものである。

特に精巣内への男性ホルモンペレット移植療法は、特発性男性不妊症に対し有効である可能性を示した。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。